

などなど、様々な動機の人間が集うのですから、言葉の誤解、好き嫌い、トラブルも起きます。コロナ禍もありました。運営は一筋縄ではいきません。大事なのはお一人お一人を知る事だと思いました。なので時間がかかります。やがてその時間は、伴侶亡くした悲しみ寂しさを知るだけでなく、生前のご夫婦の様子、つまりご夫婦の生き方、価値観を拝聴する貴重な機会だと認識し始めました。それを目の前の会運営にも活かすようにしました。

現在会員約 70 人、女性が過半数、京都市内・府下に留まらず近府県、そして関東にも会員さんが。これら会員さんの絆は会報です。顔は見えなくても心は通うことを大事にしています。そして、会員さん同士の趣味の交流を大事にしつつ、全体企画は散策食事会などの交流型と、終活などの学習型の二本立てで、1 ヶ月半位交互に開催しています。又、それまで伴侶亡くした当事者だけだった会員を、昨年从这个テーマに関心ある方に賛助会員と設定と設定しました。

言わずもがなの超高齢者社会のこの国で、人生の連続性を考えると、私は 20 年の介護と言う第一ステージでは終われないと思いました。それは各々の亡き伴侶が「千の風」になって我々をしっかりと見ているからです。夫婦間の生と死のわずかな前後、そんな第二ステージを少しでも心豊かに生きる。それがこの会の真髄です。

2026 年 3 月 8 日
腑抜け NO 会事務局長
富田 秀信